

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
公告方法	電子公告 (http://www.tohohd.co.jp/) による。 (止むを得ない事由により電子公告できない場合は、 日本経済新聞に掲載する。)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求
その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を
開設されている口座管理機関(証券会社等)で承る
こととなっております。口座を開設されている証券
会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱
UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注
意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きに
つきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関と
なっておりますので、上記特別口座の口座管理機関
(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱
UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行
本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

■ 特別口座に記録された株式	お手続き、ご照会等の内容	特別口座の 口座管理機関	お問合せ先
	<ul style="list-style-type: none"> 特別口座から一般口座への振替請求 単元未満株式の買取請求 住所・氏名等のご変更 特別口座の残高照会 配当金の受領方法の指定(*) 		三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
	<ul style="list-style-type: none"> 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	[手続き書類のご請求方法] <ul style="list-style-type: none"> 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主さまは、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。			
■ 証券会社等の口座に記録された株式	お手続き、ご照会等の内容	株主名簿 管理人	お問合せ先
	<ul style="list-style-type: none"> 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問合せ 		三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
	<ul style="list-style-type: none"> 上記以外のお手続き、ご照会等 		口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

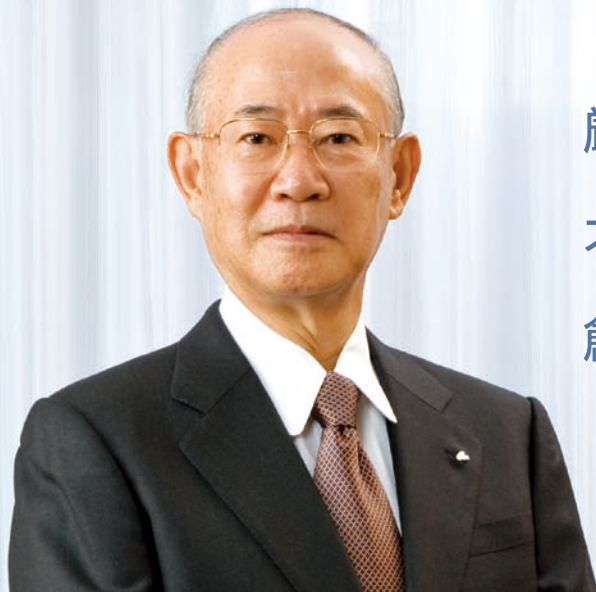
株主の皆さまへ

第62期 第2四半期のご報告
(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

Customer's Joy
Customer's Satisfactionを越えてCustomer's Joyへ

社長インタビュー

厳しい経営環境に打ち克ち、
オリジナルビジネスモデルを
創発していきます。



代表取締役社長
濱田 矩男

Q1 第2四半期の業績はいかがでしたか？ 要因と合わせてお話しください。

**大幅増収のほか
利益率の回復が進みました。**

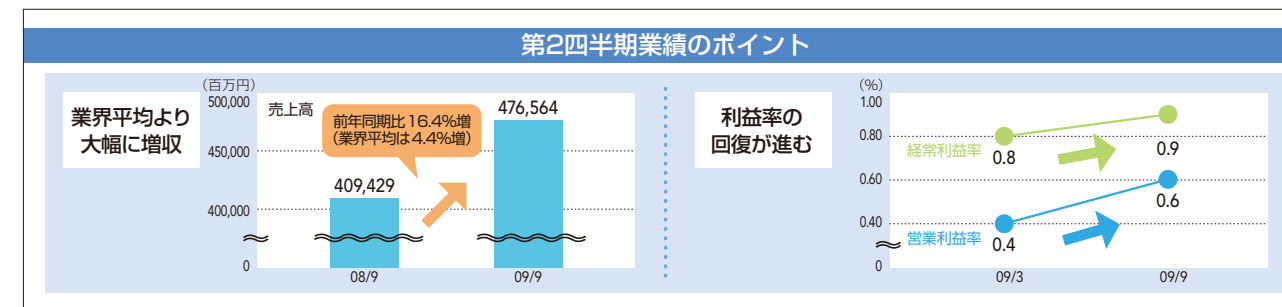
この上半期の国内景気は一連の内需刺激策などの効果により持ち直しの動きが見られたものの、依然として低水準のまま推移しました。医療用医薬品市場は薬価改定2年目を迎えたほか、高齢化を背景に価格下落圧力がやや緩和したことなどから、市場規模は前年同期比4.4%増と緩やかに伸長しました(クレコンリサーチ&コンサルティング(株)の推計)。

この上半期の国内景気は一連の内需刺激策などの効果により持ち直しの動きが見られたものの、依然として低水準のまま推移しました。

こうしたなか当社グループの売上高は、(株)オムエル、(株)アスカムとの共同仕入の開始により商品供給が大きく伸びたほか、競争優位にある顧客支援システムを柱とする提案型営業の強力な推進によって価格下落を最小限に抑えたこと、生活習慣病関連薬剤や新薬が伸びたこと、新型インフルエンザ関連需要の増大を確実に取り込んだことなどから、市場平均の伸びを大きく上回り、前年同期比16.4%増の476,564百万円とすることができました。営業利益、経常利益は価格下落圧力の影響が小さかった

前年同期に比べるといずれも減少しましたが、調剤薬局事業が順調に拡大したこと、経費見直し等で販管費の伸びを抑えたことなどから、営業利益率は前年同期比0.2ポイント改善し、経常利益率も同0.1ポイント改善することができました。これと売上高の増大がかみあった結果、営業利益は期初予想を1,116百万円上回る2,916百万円、経常利益も期初予想を1,132

百万円上回る4,432百万円とすることができたほか、四半期純利益は、特別損失を計上した前年同期に比べ5,182百万円増の2,286百万円を確保することができました。



Q2 グループ会社の再編を精力的に進められています。目的と進捗状況についてお話しください。

**経営の効率化を通じた
グループ企業価値の最大化が目的です。**

医薬品流通業界では、得意先による取引先の選別強化や大手医薬品卸会社間の競争激化、医療費適正化の流れによる販売価格の低下、顧客のバイイングパワーの増大など、経営環境はますます厳しさを増しています。そうした環境下にあってもグループ企業価値のさらなる増大と、変化の激しい経営環境への迅速かつ柔軟な対応を図るため、当社グループは今年の4月から持株会社制に移行し、さらなるスピードアップとシナジー強化、意思決定の迅速化に取り組んできました。上半期に実施し

た企業再編・組織再編はまさにその一環です。取り組みポイントとしては、

- 医薬品卸売事業では、共創未来グループの経営資源を最大限効率的に活用すること
- 調剤薬局事業では、薬局経営の効率化と高付加価値化を強力に支援すること
- 顧客支援システムでは、開発、販売のさらなる効率化と基盤強化を進めること

を念頭に、ほぼ計画通りに進めてきました(次ページ表参照)。下半期も順調に進めることができる見込みで、持株会社制の初年度として計画したことは、ほぼ全て実行できる見込みです。

社長インタビュー

持株会社移行初年度(当期)のグループ会社再編

実施(予定)月	内容	目的
2009年10月	オムエルを完全子会社化	仕入、物流、営業等においてシナジーを追求
2009年10月	九州東邦と森薬品を経営統合	九州地方における共創未来グループの経営資源の効率的活用
2009年10月	エトスと東薬を経営統合(エトスを存続会社に)。エトスはトモニティに名称変更	親子会社の経営資源の有効活用により、事業成長機会の確保ならびに環境変化への対応を目指す
2009年10月	ネグジット総研、ABCランニング、エス・エヌ・インフォメーションシステムズを完全統合し、ネグジット総研を存続会社とする3社統合	「顧客支援システム」の開発、販売の効率化、基盤強化
2009年12月	セイコー、ひまわり薬局を完全子会社化	薬局機能強化とグループ企業価値の最大化
2010年 1月	オムエルとセイナスを経営統合、セイエルに商号を変更	中国地方における共創未来グループの経営資源の効率的活用

Q3 第2次中期経営計画への意気込みと進捗状況についてお話しください。

Customer's Satisfactionを越えて Customer's Joyへ。 オリジナルビジネスモデルを創発していきます。

持株会社制と同時にスタートした第2次中期経営計画「需要イノベーターへの挑戦10-12」では、基本方針として「新たなグループ戦略の確立」を掲げるとともに、もう一つの軸として「オリジナルビジネスモデルの創発」を掲げています。これは、顕在化している顧客要求を満たして満足を得るCS(Customer Satisfaction:顧客満足)を越え、潜在的な顧客要求を満たしてその歓喜を得るCJ(Customer's Joy:顧客歓喜)を新たなキーワードとし、患者さまの最高の笑顔、医療機関の最高の笑顔のためのオリジナルビジネスモ

デルを創発し、企業価値の極大化を図ろうというものです。既にCSについては、当社独自の顧客支援システムを通じかなりの部分で実現できていると自負しています。これを越えてもう1つ上の

目標=Customer's Joyに到達するには、私たち自身が「需要イノベーター」となることが必要であると考えています。個々のニーズや課題を丁寧に解決し、そのことを高い付加価値としてお客さまに認めていただけるという当社ならではの強みをさらに伸ばすことによって「需要イノベーション*」を果たしてまいります。

*需要イノベーション…顧客が抱えている緊急課題や潜在課題、関連課題の優先順位を理解し、これにproactiveに応えるために、製品/情報/サービス/ネットワークのパッケージを整え、生命・生活の質の改善をもたらすこと。

Q4 利益還元方針と、株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

私たちは株主の皆さまへの利益還元を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、1株当たり利益を向上させることが責務であると認識しております。将来の収益基盤の強化と市況変動に備えて内部留保の充実に努めながら、安定配当を基本に、毎期の業績変動も勘案していきたく考えています。この方針に基づき、当第2四半期

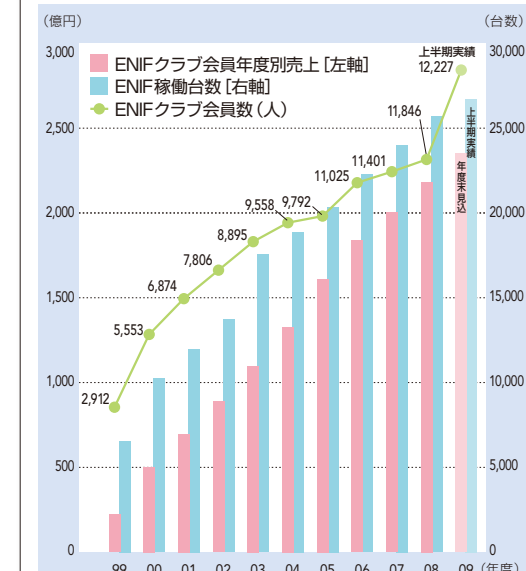
の配当は普通配当8円とさせていただきます。また2010年3月の期末配当につきましては、8円とさせていただく予定です。これにより年間配当は1株当たり16円となる予定です。株主の皆さまには、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



調剤薬局・医療機関から圧倒的な支持を得る顧客支援システム

<p>ENIF</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 26,728台 ● 全国調剤薬局の約4割で導入 <p>医薬品オーダーシステム</p>	<p>ENI ファーマシー</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 659台 ● 全国約340施設で導入 <p>医薬分業支援システム</p>
<p>LXMATE HeLios /SELENE</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 2,256件 ● 患者さまの待ち時間を解消 <p>診療予約システム</p>	<p>ENIF win</p>  <ul style="list-style-type: none"> ● 363施設 ● 院内物流をトータル管理 <p>在庫管理システム</p>

伸び続けるENIF導入実績



財務ハイライト

当第2四半期のポイント

- 市場成長率を大幅に上回る増収となったほか、利益率の回復が進みました(P1~2参照)。
- 調剤薬局事業が着実に拡大し、売上高、営業利益とも前年同期比150%超となりました。
- 持株会社制におけるグループ経営効率の追求により、資産が拡大しています。

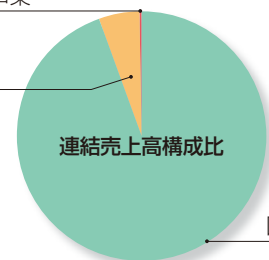
事業セグメント別情報

治験施設支援事業

0.05%

調剤薬局事業

5.28%



医薬品卸売事業
94.67%

■ 医薬品卸売事業

売上高	462,521百万円 (前年同期比14.8%増)
営業利益	1,782百万円 (前年同期比61.7%減)

■ 調剤薬局事業

売上高	25,800百万円 (前年同期比153.3%増)
営業利益	1,115百万円 (前年同期比155.1%増)

■ 治験施設支援事業

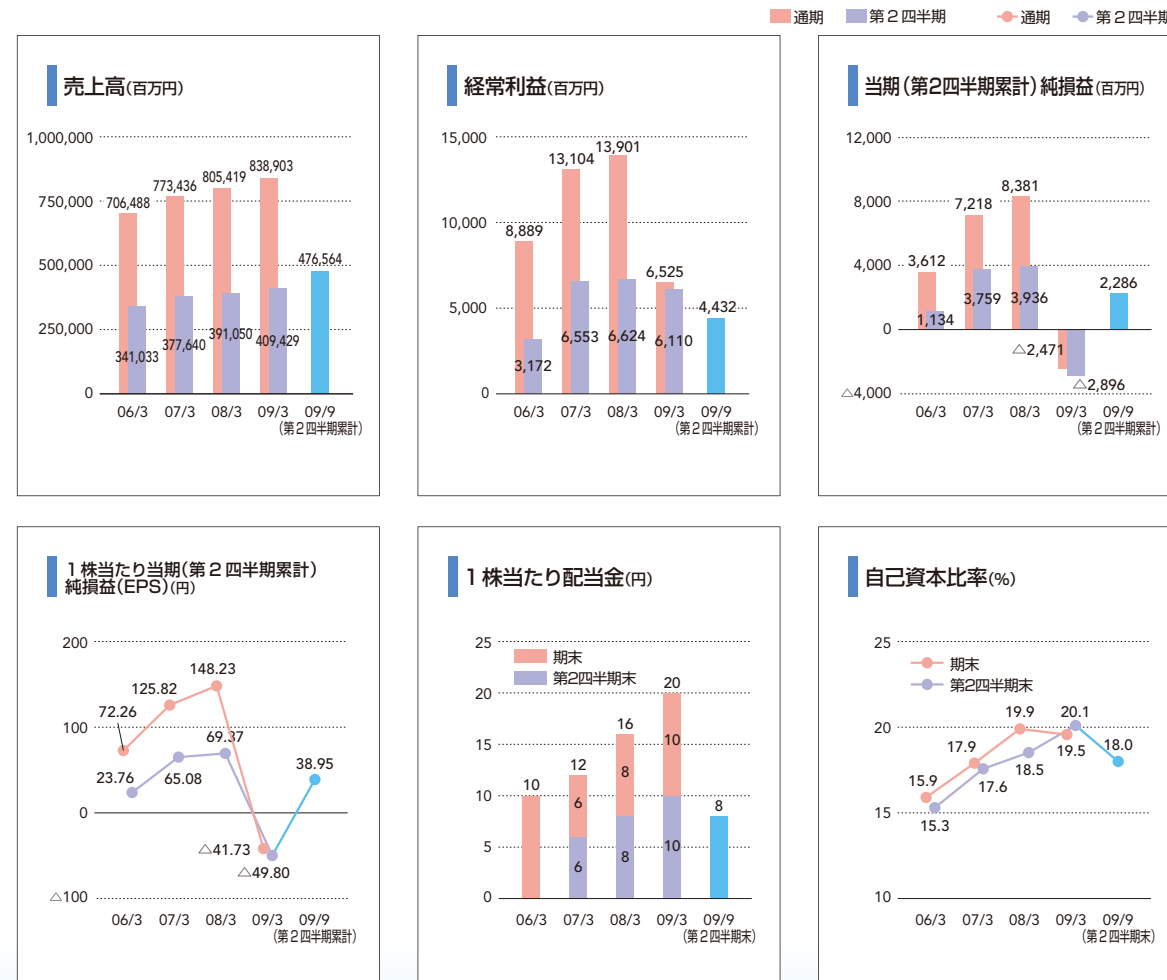
売上高	259百万円 (前年同期比26.3%増)
営業損失	△39百万円

連結貸借対照表(要約)

	当第2四半期末 2009.9.30	前期末 2009.3.31	増減
流動資産 (百万円)	345,972	305,589	+40,383
固定資産 (百万円)	102,983	92,256	+10,727
流動負債 (百万円)	330,734	299,087	+31,647
固定負債 (百万円)	37,447	21,153	+16,294
純資産 (百万円)	80,774	77,605	+3,169
総資産 (百万円)	448,955	397,845	+51,110

詳細な財務諸表をご希望の方は、東邦ホールディングスホームページ(IR情報) (<http://ir.tohohd.co.jp/ja/BriefAnnouncement.html>) に掲載している決算短信をご利用ください。

主要指標の5年推移



「ファーマシーフェア」を開催

調剤薬局の未来を提案

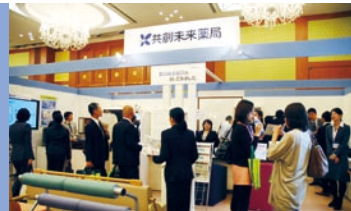
東邦ホールディングスは今年10月、地域に根差した保険薬局・薬剤師に特化したイベント「ファーマシーフェア」を開催しました。日本初となったこの試みには約50社が出展し、1,700名以上もの来場者が訪れ、盛況のうちに閉幕することができました。



メイン会場となった品川プリンスホテル・アネックスタワー5階「プリンスホール」



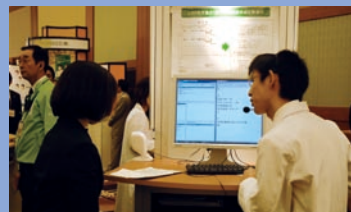
「ENIFclub 薬剤師webラーニング」の体験コーナーでは、実際に講義を受けることができ、確認テストも用意



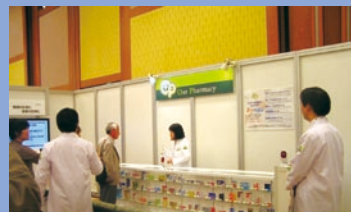
「共創未来薬局」ブースでは、最新の調剤機器、感染者用投薬室のほか、待合室関連でも様々な提案を展示



「在宅介護」ブースでは、実際に在宅医療で使われている酸素濃縮装置などを手に触れられるかたで紹介



6月に発売した音声認識薬歴作成支援システム「ENIFvoice」。薬剤師によるデモンストレーションスタイルを10台、フリースタイルを5台設置し、実際の使用イメージが描きやすい内容とした



模擬薬局「Our Pharmacy」では、残薬管理用バッグや「かかりつけ薬局になるための5つの約束」を提案



東邦薬品・国分・大木による「sunflower プロジェクト」では、調剤薬局向けのサプリメントや健康食品を提案

東西合同の 薬局共創未来研究会も 同時開催

「薬局共創未来研究会」は、個々の薬局では対応困難な「コスト削減による効率向上」「将来に向けた投資」「かかりつけ薬局機能を発揮する患者支援」「薬剤師の確保・教育研修」といった課題を、参加薬局全体で協力して解決する“やわらかな絆”です。これまで延べ約200社（約2,100店舗）が参加した同研究会は東日本、西日本で個別に行われていましたが、ファーマシーフェアを機に初の東西合同研究会が行われました。研究会会場では藤長義二氏による「かかりつけ薬局になるための5つの約束」と、社団法人日本薬剤師会副会長の山本信夫氏による「薬剤師・薬局業務からみた22年度診療報酬改定等について」の2題の基調講演が行われ、600人を超える方々にご参加いただきました。



山本信夫氏による基調講演

当社のお客さまである調剤薬局の大半は、独立経営／独立志向の企業です。東邦ホールディングスは、地域で自立し、医療と患者に貢献しようとしている薬局への支援を目的とし、昨年、「薬局共創未来」を立ち上げました。今回の「ファーマシーフェア」もその一環で、調剤薬局を取り巻く環境変化に対応するには薬局と薬剤師に何が必要かを考え、これからの調剤薬局のあるべき姿を発見してもらう“道しるべ”となることを目指したものです。フェアのキーワードは調剤薬局の「進化と深化」。栄養指導、健康食品、PBやOTC医薬品など薬局機能・業務の拡大、経営強化を通じた調剤薬局の「進化」を提案する一方、薬剤師の専門性に特化し、医療連携から在宅、緩和ケアま

での深掘りを通じた「深化」も提案しました。

東邦グループは複数のブースにわたり、ENIF、ENIFvoice、e-ENIF.net、ENIFclub 薬剤師webラーニングなど最新鋭の顧客支援システムを展示。なかでも「ENIFvoice コーナー」に集まった多くの来場者からは、自動音声認識による薬歴作成の精度の高さとスピードに歓声があがっていました。東邦グループのブースにはそのほかにも、「夢のある薬局」をテーマにした共創未来グループの模擬薬局や、ミシシッピ大学薬学部客員教授藤長義二氏による「地球のため

に、患者のために」をコンセプトとした模擬薬局「Our Pharmacy」や、在宅介護のポイントを最新機器とともに紹介するコーナーを展示。さらに食品卸の国分、一般医薬品卸の大木との提携による「sunflower プロジェクト」では「調剤薬局における物販の可能性」をテーマとするなど、幅広く示唆に富む展示内容が来場者の関心を引いていました。

メイン会場ではこのほか大手製薬会社、食品メーカー、エレクトロニクスメーカー、システム会社などが、それぞれの強みと特徴を活かし、経営・業務改善・患者さまへのサービス向上をはじめ病院・クリニック・薬局の開業支援にいたるまで、幅広い観点から新しい調剤薬局を提案しました。

ご来場者の声（アンケート結果より抜粋）

- 他の展示会と違い東邦の魅力を感じた盛況な会。参加してよかった。
- 次回開催も期待している。是非参加したい。
- 現在東邦との付き合いは強くないが、これを機に深いお付き合いをしていければと思っている。
- ENIFvoiceの音声認識能力の高さに驚いた。非常に興味を持った。
- 昨今では珍しいくらい道案内から会場スタッフ全て、立ち方まできちっとしていた。多くの方がしっかりした会社、フェアだと感じたはず。
- 東邦薬品の提案型営業には日頃より感心していたが、フェアに参加しその実態を見てさらに感心させられた。

トピックス

▶ 製薬会社のマーケティング・MR支援事業を強化

製薬会社のマーケティングや医薬情報担当者(MR)を支援する新しいビジネスモデルの確立に取り組んでいる当社は、このたび営業担当者が使用するスマートフォン「Meissa」に音声認識の機能を搭載しました。病院やドクター、調剤薬局から収集した情報を直接音声で入力すると文字データに自動変換され、担当MRなどにメール送信されます。これに

より情報の速報性が高まるほか、データとして蓄積・保存できるため、情報を分類・分析し、医薬品のマーケティングや市販後データ情報などとして役立てることが可能になります。

今後は同事業を製薬会社のマーケティング支援を含めたシステムサービス事業として成長軌道に乗せ、新たな収益源として育成する方針です。



Meissa使用イメージ Meissa本体

▶ 東京大学との共同研究を開始

東邦ホールディングスおよび東邦薬品(株)、トモニティ(株)の3社はこの10月より、薬局内で起こりえる様々な事例や、医療消費者のヒヤリハット・トラブル事例等の情報を収集、評価・解析するシステムと、市販後の医薬品の効能や副作用

用についての調査を高效率に展開するシステムの開発を目的に、東京大学との共同研究を開始しました。

当社の営業担当者が取引先の病院・診療所等から収集した医薬品情報をもとに医薬品を評価・解析し、その情報を製薬会社へ提供することで、製薬会社は、製品調査を効率的に行うことが可能

になります。

また当社グループの調剤薬局でも「ヒヤリハット」などの事例を収集し、評価・解析するシステムを同時に開発する予定です。解析情報を薬局にフィードバックすることで、事故の未然防止を目指してまいります。

ENIFvoice

ENIFvoice

6月に発売した「ENIFvoice」は、薬歴作成作業の効率化や服薬指導品質の向上などを目的に開発した音声認識を利用する薬歴入力支援システムです。薬局カウンターにマイクを備えたパソコン端末を置き、患者に医薬品を渡す際のやり取り

を音声から文字に自動変換して情報を蓄積する仕組みになっています。従来は薬剤師が調剤業務の終了後に患者の体調や渡した医薬品の情報などを手書きでまとめるケースが多く、薬剤師の大きな負担となっていました。ENIFvoiceを導入することにより、こうした業務の大幅な効率化が見込めます。



※本製品の音声認識技術にはAmiVoice(R)を使用しています。

会社概要 / 株式の状況 (2009年9月30日現在)

会社データ		役員
会社名	東邦ホールディングス株式会社	代表取締役会長 松谷 高顕
本社	〒155-8655 東京都世田谷区代沢5-2-1 電話番号: 03(3419)7811	代表取締役社長 濱田 矩男
お茶の水オフィス	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5-23 電話: 03(5259)9500 株主担当: 03(5259)9500 IR担当: 03(5259)9520	取締役副社長 河野 博行
グループ会社	医薬品卸売事業: 東邦薬品(株) 調剤薬局事業: ファーマクラスター(株) 情報処理事業: (株)東邦システムサービス 不動産事業: 東邦不動産(株) 臨床試験受託・支援事業: (株)東京臨床薬理研究所、(株)東京臨床CRO 院内物流支援事業: (株)メディカルトラスト 企業経営・医療経営コンサルティング: (株)ネグジット総研、(株)ABCランニング	取締役 本間 利夫
		取締役 松谷 竹生
		執行役員 森久保 光男
		執行役員 荻野 守
		執行役員 片岡 滋
		執行役員 加藤 勝哉
		執行役員 石井 護
		執行役員 須江 一成
		執行役員 佐藤 茂
		常勤監査役 北道 武敏
		常勤監査役* 松宮 幹彦
		常勤監査役* 松本 禎郎
		監査役 剣持 弘
		監査役* 佐藤 宏
		(注)上記*の監査役は社外監査役です。
設立	昭和23(1948)年9月	
資本金	106億49百万円	
株式	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード: 8129)	
従業員数	6,264名(連結)	

